KSK

あゆみ会報

2024年5月号 第201号

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会 〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

編集 湘南あゆみ会

〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA 平塚ビル3F フレンズ湘南内 TEL/FAX 0463 - 24 - 0420

定価 50円 (会員は年会費に含まれています)

報

2024 年度(令和 6) 第 19 回湘南あゆみ会定期総会 開催 出席者 20 名

4月30日(火) $13:00\sim16:00$ ひらつか市民活動センターA 会議室において開催しました。

I 部 定期総会 Ⅱ部 映画上映「ふるさとをください」

曽我節子さんの進行により、議長に鵜殿満さん、書記に與野芳江さんを選出し、総会資料に沿って議 事が進められました。

1号議案 2023 年度活動報告 2023 年度決算報告 (会計担当辞任のため代読) 監査報告

2号議案 2024年度事業計画案 2024年度予算案

3 号議案 役員改選案

全ての議案が承認され、続いて代表世話人交代の発表と挨拶がありました。

退任:谷田川靖子 着任:渡辺みどり

4 その他 湘南あゆみ会会則の賛助会員会費変更の説明及び「じんかれん会員及び会費に関する規則」 の説明がありました。

質問 1.「じんかれん会員及び会費に関する規則」について、昨年のじんかれん総会での質問に対してま だ返答がない。 (回答) 返答はきているが 2024 年度の総会で理事長が説明します。

質問 2. 成年後見利用支援センターケース検討調整会議への委員推薦を本人の了解なく取り消され謝罪 がなかった。 (回答) 世話人以外の人を推薦することはできない。推薦取り消しについて 本人の了解を得なかったことをこの場をお借りしてお詫びします。

質問3. 平塚市との懇談会に市長の出席を求めたらどうか。 (回答) お願いしてみます。

一人の会員から神奈川精神医療人権センター発行「かながわ精神科病院訪問記」の配布がありました。 《2024年度事業計画》

4月 サロンあゆみ 第19回定期総会

5月 NPO 法人じんかれん定期総会

心理勉強会 平障連定期総会

6月 SST 勉強会 サロンあゆみ 映画上映「ふるさとをください」

7月 平塚市との懇談会 心理勉強会

8月 平塚市への要望書提出 サロンあゆみ

9月 講演会「愛着障害について」 心理勉強会

10月 福祉会館まつり

11月 みんなねっと関東ブロック大会 心理勉強会 センターまつり

12月 バス研修旅行 サロンあゆみ

1月 新年会 心理勉強会

2月 SST 勉強会 サロンあゆみ

3月 交流会 心理勉強会

*状況により変更する場合があります。

報告 4月19日の「サロンあゆみ」は、悩みなどを自由に話し合う交流会を行ないました。

参加者 17 名 うち初めての方 2 名 小田原キャリカク (就労支援事業所) から 2 名参加 それぞれが自己紹介と困っていることなどを話し会い、活発な交流会となりました。 いくつかを紹介します。

- ・じんかれんのホームページを見てあゆみ会を知り参加した。親亡き後が心配。
- ・息子達の病気に必死に向き合ってきた人生だった。助けて欲しい時に助けがなくて困った。
- ・病気の娘がリストカットを何回もし、母親を支配してしまっている。
- ・今の状態は前の世代から繋がっていると言う考え方がある。
- ・現状を認めてできるだけ話しを聞くようにし、食事に気をつけている。
- ・就労支援の場では、先ず生活リズムを整えることを大事にしている、などなど。

これからの予定

- 5月26日(日)10:00~12:00 平塚市障害者団体連合会 定期総会 場所:平塚市福祉会館3階大研修室 理事2名 代議員5名出席
- 6月7日(金) 13:00~16:30 SST 勉強会 高森先生 場所:ひらつか市民活動センターA 会議室 個人相談もできます。希望の方はお知らせ下さい。
- 6月21日(金)13:00~16:00 サロンあゆみ 自由交流会 話すと心が軽くなります。 場所:ひらつか市民活動センターA 会議室

映画上映会 きょうされん 30 周年記念映画

『ふるさとをください』 [字幕あり]

日時:6月23日(日) 場所:平塚市美術館ミュージアムホール

上映:1回目10:30~12:04 2回目:14:00~15:34

《入場無料 · 予約不要》

湘南あゆみ会では、障害のある人々を理解するための映画を上映します。 昨年の「どんぐりの家」に引き続き、今年は精神疾患をもつ人々の作業所を 舞台に、メンバーさん同士の結婚問題も織り交ぜ、私達の心の中に存在する 偏見に光を当てた映画です。一人でも多くの方々に見ていただけますように、 お知り合いの方々にもお声かけくださり、お誘いあわせてお出かけください。

●家族による家族学習会(統合失調症勉強会)開催のお知らせ

今年度も家族による家族学習会を行ないます。テキストを用いて統合失調症についての正しい知識を 学び、互いの経験を語り合い、家族が元気になることを目的とします。

10月より毎月1回(第2木曜日)全5回開催。 参加費 2000円(テキスト代ほか) 募集人数 6名 広報誌で公開募集する前に会員の皆様にお知らせし、優先的に募集します。詳細は6月号でお知らせしますが、ご希望の方はご連絡ください。 <u>090-5322-0580</u> 鵜殿満まで。

悲願ついに JR 含む私鉄大手が精神障がい者へ交通運賃割引制度導入を発表

2024年4月11日 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)

本日、精神障がい者運賃割引を適用していなかった JR、私鉄大手が制度導入を発表しました。 これで、2025 年 4 月には JR グループと大手私鉄 16 社(東武、西武、京成、京王、小田急、東急、京急、 東京メトロ、相鉄、名鉄、近鉄、南海、京阪、阪急、阪神、西鉄)が揃って、精神障がい者の運賃割引 を導入することになります。

当事者、家族をはじめ多くのみなさんの声と国土交通省の粘り強い働きかけも含め、鉄道各社の理解のもと、この日を迎えることができ感謝致します。

みんなねっとでは、2014年6月5日第7回定期総会で「身体・知的障がい者同等に交通運賃割引制度 の適用を求める決議」を採択しました。そして「JRなど交通運賃割引推進プロジェクトチーム」を立ち 上げ、全国の家族(会)が力を合わせて取り組むことを決定しました。

2014年12月〜翌年2月 全国47都道府県の家族・当事者を対象に交通運賃に関する全国アンケート調査を実施。2015年4月27日、4818名の調査結果をまとめ、厚労省記者クラブで記者会見を行ない発表。2016年5月13日、国会請願署名62万の提出中央行動に全国各地の家族会員162名が参加。紹介議員を承諾した国会議員は174名。

2017年4月1日より西鉄が精神障がい者への運賃割引を実施。

2018 年 10 月、日本航空グループと 2019 年 1 月 全日空グループ等航空会社が精神障がい者に対する 割引適用と共に、障がい者に対する航空旅客運賃割引の適用拡大。

2019年6月26日、第198国会でついに衆参両院の国土交通委員会でJR等の交通運賃割引制度を精神障がい者も対象とする採択がなされました。2021年4月15日、赤羽国土交通大臣への要請を実現。岡田久美子理事長は「運賃割引の実現は、所得保障観点からだけでなく、精神障がい者のみが制度から除かれている状態が、自分たちの存在が否定されており、尊厳をも踏みにじること、偏見差別を助長することにもなる」と訴えました。これを受け、同年6月11日には、「真の共生社会実現に向けた新たなバリアフリーの取り組み」という国土交通大臣指示が出され、公共交通機関における精神障がい者割引の導入促進が打ち出されたのです。

(一部省略) 今後は、各社とも障がい種別を超えて 100 km以下の同伴条件も廃止し、全ての手帳所持者 (等級にかかわらず) が割引の対象となる制度に改善を求めます。また、鉄道以外の公共交通運賃(高 速道路など) も引き続き割引実現を求めて行きます。

(みんなねっとの発表を掲載)

代表世話人交代のご挨拶

退任のご挨拶

2010年(平成22) その時の新田代表が家庭の事情で退任することとなり、何も分からないままお役を引き受けて13年、多くの方に出会い、多くのことを学ばせていただきました。その間2013年には30周年記念誌を編纂、発行し、1983年(昭和58)の発足当初からの諸先輩方のこの会(当時名 湘南社会復帰協会)に寄せる熱い思いを知り、感動しました。これからも大事な社会資源である家族会を守り抜いて行っていただきたいと切に願います。退任するにあたり、これまでのご協力に感謝申し上げますと共に、会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

着任のご挨拶

この度 代表になりました渡辺みどりです。思えばこの会に入って 20 年以上になり、お陰様で皆様と

一緒に活動する中で私自身も家族も救われました。行き届かないことが多々あると思いますがご協力宜しくお願い致します。今まで同様、家族の皆さん、当事者の皆さんと力を合わせ、身近に役に立つ、楽しいあゆみ会を目指して進めていきたいと考えています。この度、他の障がい者と同じように、精神障がい者にも運賃割引制度が導入されました。全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)やじんかれんに所属する家族会、当事者団体などが30年の長きに亘って運動に取り組んできた成果です。全国で力を合わせて活動することが何より大切と考えます。

6月に上映する映画も精神障がい者に関わる全国の様々な会が協力してできた映画です。あゆみ会は これからも全国の皆さんと協力して活動していきますので、ご理解とご協力をお願い致します。

渡辺 みどり

「精神疾患教育から始まるこころの健康社会」

群馬大学 神経精神医学 福田正人

暮らしと生きるに結びついた国民病

2022年度から、高校の保健体育で精神疾患についての教育が始まりました。約40年ぶりに教科書で精神疾患を学ぶことが「こころの健康社会」に向けた一歩となることが期待されます。高校で教育が始まるのは、精神疾患が暮らしと生きるに結びついた国民病だからです。

精神疾患は、多くの人の暮らしに影響します。日本の精神疾患の受診患者は 615 万人で、国民の約 20 人に 1 人です。疾患による生活の支障を障害生存年数(years lived with disability, YLD)という指標で表すと、精神疾患による影響は手足や関節の病気に次いで第 2 位です。精神疾患は多くの人に関係し、暮らしに影響する国民病として、医療法における 5 疾病の一つに定められています。

精神疾患は、命にも結びついています。日本の自殺者数は毎年2万人以上で、国民の約70人に1人が自殺で命を落とします。交通事故による死亡の7倍以上で、 $10\sim39$ 歳では死因の第1位です。多くの場合に背景には精神面の困難があり、精神疾患の正しい理解は命を守ることに結びつきます。

ユース世代に多い精神疾患

精神疾患には、若い人に多いという特徴があります。

多くの病気は高齢になると増えていきますが、精神疾患の症状の多くは10~20歳代に始まります。統合失調症や躁うつ病や発達障害など代表的な精神疾患は、中高生にとって「いずれなるかもしれない病気」ではなく、「今の自分や友達や家族のこと」です。

精神病状によるつらさや暮らしの支障を若い時期に経験することは、その時の困難としての意味だけではありません。人間関係や学習の経験を積み重ねて自己を形成するユース世代に影響を与えるからです。

そうした精神疾患について、1970年頃までは、中学高校の教科書においてさえ、「最終的には廃人同様になる」「優生手術の対象となるべき」と記載されていました。学校教育が偏見を助長していたことになります。今回、高校保健体育で、精神疾患教育が再開されたことで、社会の意識が変わっていくことが期待されます。

(月刊みんなねっと誌 2024年4月号より転載 2回に分けて転載します)

精神保健福祉ボランティアグループ こんぺいとうの予定

5/18 (土) 定例会 福祉会館第3会議室 13:30~

5/25 (土) サロン 福祉会館 いこい室・調理室 11:00~14:00 参加費300円

6/8 (土) お茶会 中央公民館和室 13:30~15:30 参加費 100円

6/15(土) 定例会 福祉会館第3会議室 13:30~

*ご意見・質問・お問い合わせは佐藤さんまで。 Tel090-8487-0129